



# トライデント株式会社 企業方針

第10期を迎え、次なる10年への再出発へ



平成27年6月1日  
代表取締役 鈴木勲





# 創業から現在までの軌跡（1）

当社は平成18年12月に創業・営業を開始しました。

創業期の当社は、ソフトウェア開発における事前検討から基本設計といった難易度の高い上流工程を主軸に業務委託で開発していましたが、平成19年にアメリカで発生したリーマンショックからの世界金融危機による経済各分野における需要の低迷に影響を受けた取引先の倒産や受注額の減少など創業期から経営危機を迎えることになりました。

この経営危機に対し当社は「利益優先主義の徹底」を謳い、同業他社が出来ない高難易度の業務を中心に受注し直おすことし経営危機を乗り切ることができました。しかしながら、高難易度の業務ばかりとなってしまう社内においては、後進への技術教育および育成が困難となり、望まぬ形で少数精鋭の会社となってしまいました。

平成19年以降も長らく不遇の時を経た平成23年3月、日本を東日本大震災が襲いました。

多くの人命が失われた東日本大震災の余波を受けてか、大手顧客からの受注が止まり当社は当時受注していた全ての注文が取り消しになるという第2の経営危機を迎えてしまいました。第2の経営危機に対し当社では、当時の採用予定者への内定取り消しや従業員の給与体系含む社内制度の改革などを断行しても倒産が目前に迫っていました。

経営者の私が諦めかけていた頃、当社の従来の営業方針では営業対象外であったAccessやExcelといったソフトウェアでの自動計算などの比較的難易度が低い業務を地域の中小企業よりの好意により受注することで第2の経営危機を乗り切ることができました。

## 創業から現在までの軌跡（2）

この第2の経営危機の教訓として得たものとして、大企業が発注する大規模プロジェクトや難易度の高い業務のみを営業対象としていた従来の企業方針を“傲慢”な姿勢であると、これを反省をし、本当にITを必要とする顧客すべてにITを提供、活用していただき企業活動に貢献できるように企業としての方針を「**社会に必要とされるIT企業となる**」ことに改めました。

新たな企業方針に沿ったことで、平成24年以後は毎期の黒字化が達成することができました。現在では、過去の失敗を繰り返さぬよう得意とする金融システム開発の業務分野へのノウハウの深化とITによる業務改善を求める顧客すべてに対してのITサービスの向上を常に図りつつ、新たに採用した若手エンジニアへの技術教育、将来にわたって成長する機会の提供ができる企業「**トライデント株式会社**」として新生の声を上げるに至りました。



また、平成26年6月には会社のロゴマークを旧来のものから現在のロゴマークに変更しました。

新たなロゴマークである蝙蝠には、「**一つ考えに囚われることなく自由な目線をもって最適なITで社会に幸せを提供する**」という意味があります。

これをもって当社は、社会に貢献する企業であることを表明いたします。



# 10期以降の事業展開について

○当社は2006年12月に創業の頃より金融システムの開発に携わることが多く、意図せず金融システムの開発を数多く経験したことで現在では金融システム事業部という部署が立ち上がるに至り、今後も金融システム開発分野における技術の深化を目指し、且つ、従業員へはIT技術のみならず外為、デリバティブといった金融知識の習得ができるよう体制を整えていきます。

結果として、さらなるサービス内容の向上による新規顧客獲得と受注増を目指します。

○大手企業のみならず地域の中小企業のIT化の推進を支援します。

日本における企業のIT活用はまだまだ低レベルかつ低比率であり、これを少しでも上昇させ、もって顧客企業の業績向上に寄与します。

中小一般企業においては、システム開発のみならずWeb会議システムの導入やサーバー機器類の保守運用、グループウェアの活用指導など要望が多岐にわたることが多く、これらの他にも要望を受け止められるだけのノウハウの向上が必要となります。

○ソフトウェア技術を活用した新規サービスの確立を目指します。

顧客にIT活用を応用した業績向上を支援及び指導する以上は、自社においてもIT活用を実践できる必要があると考えます。

将来的には、経営側からのトップダウンではなく、経営、営業、技術、戦略の各部門に所属する社員からのボトムアップによる提言や発案で新規サービスを確立していくことを目指します。



# 企業方針

# 全社一致

次なる10年

経営

営業  
部門

技術  
部門

戦略  
部門

